

2017年4月3日

2017年度新入社員入社式で山本社長がスピーチ  
— 新入社員の“志”と“夢”こそが電通の可能性と未来を創り上げる —

株式会社電通の2017年度新入社員入社式が、本日、汐留本社ビル1階の電通ホールで行われ、山本敏博社長が新入社員145名（男性82名、女性63名）に向けスピーチを行いました。要旨は以下のとおり。



約半年間にわたる報道のとおり、入社を控えた皆さんとご家族の方々に多大な心配をお掛けしたことを、とても心苦しく感じています。今日こうして、新たに145名の皆さんが電通というチームに加わったことを大変うれしく思います。心から歓迎します。

今から36年前、皆さんと同じく新入社員であった私は、とにかく「仕事が難しい」と感じる毎日でした。そもそも仕事とは楽なものではなく、厳しくて当然なのですが、当時の私は単純な仕事にもやたらと時間がかかり、ミスも多く、「自分が周囲と比べて劣っている」と考えていました。皆さんも、日々の仕事の中で、さまざまな壁に直面し、戸惑うこと、落ち込むこと、苦しいと感じることがあるはずです。

そうしたときに、一人で俯き抱え込むのではなく、顔を上げて、皆さんの周囲に目を向けてほしいと思います。そこには、共に電通で仕事に打ち込む仲間と、今日から皆さんの模範となる先輩であると同時に、良き相談相手でもあるリーダー・サブリーダーがいます。ぜひリーダー・サブリーダーと、皆さんの仲間を積極的に頼ってください。

そして、仲間と共に、時には悩み、もがきながらも、自分がやるべき仕事に正面から取り組み続けることが自分自身を成長させ、それぞれの壁を乗り越える力に結びつく、ということを常に心に留めておいていただきたいと思います。

新入社員として皆さんは当初、与えられた仕事、いわば「規定演技」ともいうべき仕事が圧倒的に多くなりますが、仕事には「規定演技」と共に、「自由演技」もあります。それは、例えば、皆さんが「これをやりたくて電通に入った」「仕事を通していつか実現させたい夢」と考えているかもしれません。電通は、こうした仕事における社員の皆さんの「自由演技」を尊重する企業です。

そして、電通が「自由演技」に関して求める条件はただ一つだけです。それは、我々の「自由演技」が、我々が暮らすこの社会に確かな価値をもたらすものである、ということです。この条件を満たしている限り、この場にいる皆さんをはじめとして、全ての社員に「自由演技」に取り組む機会が存在しています。

5年後、10年後の電通の事業は、この場にいる誰かの「自由演技」が、その中核となっている可能性があります。それは、新入社員の皆さんの“志”と“夢”こそが電通の可能性を広げ、輝かしい未来を創り上げることを意味します。電通という企業における唯一にして最大の財産は「人材」です。改めて、今日から電通で共に仕事をし、共に電通を支え、共に電通の未来を創る仲間として、電通を舞台に、皆さん自身の可能性を大いに広げてください。

以上